

大和一光 I組

5月下旬、50年記念を前に母校を訪れました。

何と女子の多いこと、県峻祭まであと26日という表示があり、日曜日にも係わらずダンス、部活など元気な黄色い声が溢れていました。「こんにちは」という挨拶には嬉しい反面、様変わりに戸惑いを隠せませんでした。

振り返れば、卒業式もそこそこに東京での学生生活の準備に追われましたが、幸い先輩の御配慮により作られた板橋区の県療^〇あがりょう^〇に入ることができ、先輩や同僚に囲まれて特に違和感もなく4年を過ごすことができました。6畳に2人という中で、40人を超える寮生と夜は安酒を酌み交わし大いに議論したこと、年齢を越えて友人が広がったこと、若さに溢れた実に楽しい寮生活でした。

卒業後は、専門から国立競技場に職を得て、スポーツ関係にどっぷり浸かり猛勉強しつつ、国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターの建設、運営、サッカーくじ等に携わり、五輪、アジア大会へも参加できたあつという間の40年でした。

現在は、実家に帰り先祖の残してくれた幾ばくかの土地を耕しています。